



高輪だより

平成29年7月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

「あこがれ」

高輪幼稚園長 柿沼 敦子

先日、高輪台小学校5年生と5歳児が、今年度初めて交流しました。ペアになり、5年生が絵本の読み聞かせをしてくれました。絵本は、5年生が「この絵本を読んでもあげたい」と、相手のことを思い、図書室で探したり自分が親しんだ絵本を自宅から持って来たりしたそうです。5歳児は、普段は幼稚園の最年長ですが、この時とばかり甘えている幸せそうな姿でした。また、じゃんけん自動車ゲームでは、5年生は5歳児の後ろに付き添ったので自分たちはじゃんけんをしません、「もう1回やりたい！」と声をあげたのは5年生でした。徹底して相手を思う気持ちで寄り添いながら遊びを一緒に楽しんでくれました。

5歳児は、「5年生は優しかった」「絵本を読んでもくれて嬉しかった。」「またじゃんけん自動車で遊びたい」「脱いだ靴の並べ方が上手だった」と感想を言葉にしました。自分たちを思って遊んでもくれた5年生に大変親しみを感じたようでした。5年生もその言葉を聞いて嬉しそうでした。お互いに大変有意義な交流となりました。

5年生は5歳児にとって、優しくて頼もしい「あこがれ」の姿でした。「あんなふうになってみたい」という気持ちが自己を高めました。次の日、屋上で5歳児が4歳児に「ほら、ここにスイカができてよ、『ス・イ・カ』って言ってごらん」と優しくかかわる姿がありました。前日の5年生の姿と重なりました。

3歳児は、「シチュ・レイ・シマシュ（しつれいします。）」と職員室の入口でペコリと頭をさげました。何でしょうと様子を見ると特に用は無いようでした。5歳児のあいさつを真似した微笑ましい姿でした。4歳児のBちゃんは5歳児のように昼食後、お茶のやかんを届けました。どちらも教師が教えたわけではありません。

身近にいる人の立ち居振る舞いや人から受けた思いやりの心は、人を大きく成長させます。今後も小学生とのかかわりや異年齢との交流を大切にして「あこがれ」から育つ姿を大切に、応援していきます。

5歳児と5年生との交流

・絵本の読み聞かせ ・じゃんけん自動車 ・きれいに並んだ靴



3歳児「シチュ・レイ・シマシュ」



4歳児と5歳児「スイカができたよ」